

令和元年度 全国学力・学習状況調査の結果の公表について

平戸市教育委員会

I 調査の概要

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 教科に関する調査

- (1) 調査対象：小学校第6学年の児童（国語・算数）、及び中学校第3学年の生徒（国語・数学・英語）
- (2) 出題範囲：調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とする。
- (3) 出題内容：以下の①と②を一体的に問う。
 - ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
 - ②知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容
- (4) 出題形式：国語・算数・数学では、記述式の問題を一定割合で導入する。
英語では、「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」に関する問題を出題する。記述式の問題を一定割合で導入する。「話すこと」は原則として口述式とする。

3 質問紙調査

- (1) 調査対象：小学校第6学年の児童及び中学校第3学年の生徒
- (2) 調査内容

児童・生徒に関する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

4 調査日

平成31年4月18日（火）

5 平戸市の調査実施校・児童生徒数

小学校 15校・231人 中学校 9校・228人 計24校・459人

II 平戸市の結果の概要

1 平均正答率の全国との比較

校種	小学校		中学校		
教科	国語	算数	国語	数学	英語
結果	+				

※結果「+」…平戸市の平均正答率が全国正答率以上のもの

<結果の総括>

小学校国語において初めて全国平均を超えた。今年度はA問題、B問題という区分けがなくなり単純比較はできないが、全国平均を下回ってはいるものの、昨年度に比べてすべての教科において改善が見られる。領域別に見ると、小学校では、国語は「話すこと・聞くこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」、算数は「図形」において全国平均を上回っている。中学校では、全国平均を上回っている領域はない。数学に落ち込みが見られ、特に「数と式」に課題がある。英語は「書くこと」に課題がある。

2 各教科別の成果と課題及び改善策

【小学校】

教科	成果 (○) 課題 (●) [設問番号] 改善策 (※)
国語	<p>○学年別配当漢字表に示されている漢字を文の中で正しく使う。〔1一〕</p> <p>○ことわざの意味を理解して、自分の表現に用いる。〔3四〕</p> <p>●目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読む。〔2一（1）〕</p> <p>※自分の知識や経験、考えなどと関係付けながら読み、必要な情報を取捨選択したり、整理したり、再構築したりして、理解したことをまとめる活動を仕組む。その際、目的に応じて必要な情報が変わることや、注目すべき言葉や要約する部分も変わることを実感できるようにする。</p> <p>●図表やグラフなどを用いた目的を捉える。〔1一〕</p> <p>※図表やグラフを用いた筆者の目的やその効果を捉えながら、自分の表現に生かすことができるようにしたり、実際に報告したり説明したりする文章を書く際に、より分かりやすくするためにはどのような図表やグラフを用いるとよいかを考えさせたりするようにする。</p>

算 数	<p>○図形の性質や構成要素に着目し、ほかの図形を構成することができる。〔1〕(2)〕</p> <p>○示された除法の式の意味を理解している。〔3〕(4)〕</p> <p>●資料の特徴や傾向を関連付けて、一人当たりの水の使用量の増減を判断し、その理由を記述できる。〔2〕(3)〕</p> <p>※目的に応じて、必要な資料を収集し、複数の特徴や傾向を関連付け、一つの資料からは判断することができない事柄について判断することができるようにする。その際、例えば、本設問を用いて、ある量の水を2人で分けるときよりも3人で分けるときのほうが一人分の水の量は減るといったように、簡単な数字に置き換えて考えさせるようにする。</p> <p>●示された図形の面積の求め方を解釈し、その求め方の説明を記述できる。〔1〕(3)〕</p> <p>※面積の求め方について説明し合う活動において、一つ一つの数字は何を表しているのか、引き算や足し算の部分はどんなことを表しているのかなどを問いかけ、数の意味や演算の意味などを図形と関連付けて説明することができるようにする。</p>
-----	--

【中学校】

教 科	成果 (○) と課題 (●) 及び改善策 (※)
国 語	<p>○話合いの話題や方向を捉える。〔2〕一〕</p> <p>○封筒の書き方を理解して書く。〔1〕四〕</p> <p>●文書の展開に即して情報を整理し、内容を捉える。〔1〕二〕</p> <p>※目的をもって文章を読み、必要な情報を過不足なく取り出すことができているか、及びどのようにすればその情報にたどり着くことができるのかについて検討する場を設定する。その際、目的に応じて、中心となる語や文を捉えて段落相互の関係や事実と意見との関係を考えて読むように指導する。</p> <p>●話の一部を省いた表現について、話や文章の中で適切な活用の仕方を理解する。〔4〕</p> <p>※実際に話したり書いたりする中で、言葉の受け手の状況を予測したり反応を確かめたりしながら、どのような表現を用いると、自分の伝えたいことがよりの確に伝わるのかを考えながら表現するように指導する。また、普段から語感を磨き、語彙を豊かにするために、事象や行為などを表す多様な語句を、目的や場面に応じて適切に使うことができるように指導する。</p>

数 学	<p>○資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる。〔8〕(2)〕</p> <p>○問題解決をするためにどのような代表値を用いるべきかを判断することができる。</p> <p>●簡単な場合について、確率を求めることができる。〔5〕</p> <p>※確率を求める際、誤りの例を出すなどして、それを検証するために、樹形図や二次元の表などを利用して起こり得るすべての場合を落ちや重なりがないように数え上げる活動を取り入れるようにする。</p> <p>●与えられた説明を振り返って考え、式変形の目的を捉えることができる。〔9〕(1)〕</p> <p>※文字式を用いた説明を読む際に、説明すべき事柄に照らし合わせて式変形の目的を説明する活動を取り入れる。また、説明すべき事柄について、どのような式で表現すればよいかを考えるなどの見通しをもって取り組ませる。</p>
英 語	<p>○聞いて把握した内容について、適切に応じることができる。〔4〕</p> <p>○話と話の連結による音変化をとらえて、情報を正確に聞き取ることができる。〔1〕(1)〕</p> <p>●文の中で適切に接続詞を用いることができる。〔9〕(1)②〕</p> <p>※接続詞の習得の際、論理関係の理解が必要であるため言語活動を通して指導する。具体的には、接続詞が用いられているモデル文を見てその内容を理解する活動や、2つの文の意味を考えた上で適切な接続詞を用いて1つの文を作る活動、日本語と英語を比較しながら、主節と従属節の関係を考えるなど、英語の文構造を理解する活動等を仕組む。</p> <p>●与えられた情報に基づいて、一般動詞の3人称単数現在時制の否定文を正確に書くことができる。〔9〕(3)③〕</p> <p>※語と語のつながりなどに注意して正しく文を書くことができるように、三人称を扱った言語材料を聞いたり、読んだり、話したり、書いたりして様々な場面で繰り返し使用する活動や、生徒同士で書いたものを互いに読み合い、誤りに気づき、修正を加える活動、英文を書く際に基本的な文や文構造を確認する活動などを取り入れる。</p>

3 児童・生徒質問紙による児童・生徒の特徴（全国の割合との比較）

（○：高い状況 ●：低い状況）

【児童】

- 先生がよいところを認めてくれたり、分かるまで教えてくれたりしていると思っ
ている児童が多い。
- 昼休みや放課後、学校が休みの日に、本を読んだり借りたりするために、学校
の図書室や地域の図書館に行く回数が多い。
- 今住んでいる地域の行事に参加している。

- 授業でコンピュータなどのICTを多く利用している。
- 授業でコンピュータなどのICTを活用したいと思っている児童が多い。
- 学校の授業時間以外の1日の学習時間が少ない。

【生徒】

- 朝食を毎日食べている生徒が多い。
- 毎日同じくらいの時刻に寝ている。
- 先生が分かるまで教えてくれていると思っている児童が多い。
- 学校に行くのが楽しいと思っている生徒が多い。
- いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思っている生徒が多い。
- 人の役に立つ人間になりたいと思っている生徒が多い。
- 昼休みや放課後、学校が休みの日に、本を読んだり借りたりするために、学校の図書室や地域の図書館に行く回数が多い。
- 今住んでいる地域の行事に参加している。
- 部活動に参加している生徒が多い。
- 授業でコンピュータなどのICTを多く利用している。
- 授業でコンピュータなどのICTを活用したいと思っている生徒が多い。
- 学校の授業時間以外の1日の学習時間が少ない。
- 全ての教科において「調査問題の解答時間が不足している」と答える生徒の割合が多い。

Ⅲ 平戸市の今後の取組

- 1 各学校の調査結果及び市全体の調査結果の分析による課題の把握
※全国学力学習状況調査、長崎県学力調査、平戸市学力調査
- 2 各学校で作成する『学力向上プラン』の内容の精査及び実践に対する指導助言
- 3 各種研修会（管理職研修会、教務主任研修会、研究主任研修会、初任者研修会等）
における学力向上に関する指導助言
- 4 ICT機器を効果的に活用した授業改善のための研修会の実施
※大型デジタルテレビ、タブレットPC、電子黒板、実物投影機
デジタル教科書の活用等
- 5 平戸市学力向上会議の開催とそれを受けての各学校への指導